

『愛のうちにいるから』ヨハネ15:9-17

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにいるのと同じである。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

15:17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

●序論

最近話題のキーワード、「ディール」（取引、かけひき）と大きく違う「神さまとの”契約”」というものがあります。それは、利害関係ではなく、神さまの恵みはじまりで、与えられるものです。

イエス・キリストがご自分の命を犠牲にして、人の罪の赦しと、滅びからの救い。神の子としての永遠のいのちへの契約を立ててくださったということです。それは罪を犯してその交わりを破壊した人の方が犠牲を払うのではなく、神さまの方でお支払いくださった。それがイエスさまの十字架の物語です。

そしてその契約が有効になるは、その人が契約を信じて受け取るだけです。そして、それが大切なことなのです。

これはイエスさまの信じ受け入れて生きる人すべての人に与えられる「恵み」がおおうものです。イエスさまを信じることだけ、だから恵みの世界なのです。

聖書は、イエスさまがなぜそこまでしてくださるのかということ「アガペーの愛」「無条件の愛」をもってわたしたちを愛して下さっているからだ…と表現しています。

この時代と世界に生きる限り、わたしたちの身近にあるのは、人の知恵が生み出した「ディール」という価値観が支配的です。しかしそういうありさまを横目に、わたしたちはイエス・キリストにつながるとき、この方を中心とした恵みの世界に生きることが出来ます。それが今日あげられている御言葉にあらわされています。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

●本論

I. ここに愛の流れがある

聖書が語る愛の交わりの始まりは、父なる神さまです。

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

ここでわかることは、父なる神さまがひとり子イエスさまを愛し、そしてその受けた愛をもってイエスさまは、「あなたがたを愛した」と言われていることです。

つまり父なる神さまを源とするその愛は、愛されているイエスさまを通してわたしたちに流れてきて、さらに愛を受け取る人からさらに次へと生き生きと流れていく。それが、「わたしの愛のうちにいなさい」と言われた交わりのありさまなのです。そこには、不思議な霊的喜びが満ち溢れます。聖書はこう記します。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

それはその愛のうちに、わたしたちの内に流れてくるものです。そして聞きます。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

わたしたちの愛の源は、枯れることのない父なる神さまにあるからです。

II. 友と呼んでくださる祝福

15:13 人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。

イエスさまが自分を「友」と呼びかけてくださる言葉の、深さ、豊かさです。

15:14 あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。

15:15 わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。

弟子たちにとって、イエスさまの物語は、”誰か知らない人の物語”ではありません

んでした。それは、その時間と交わりの中で経験した”愛情を知る人の物語”だったのです。

先日ニュースの中で、現代のさまざまところで意図的に情報が操作されていることによる混乱がある。だから「情報リテラシー」が叫ばれます。

時々”ウソ物語”が次々と”流れてこんでくる”、そういう現実が今、すでに私たちの身近にあるからです。

そういう情報操作に向き合うための、ナラティブアプローチがある。

そこで、いったん時間を置いてよく聞いて、よく見る、そこにある物語を「対話」「対等な関係」を通して知る…というものだとわかります。

聖書は不思議な書物です。そこに記されているイエスさまの物語は2000年前の出来事が、今のわたしたちに向けて、”わたしを愛する神さまの物語”として迫ってくるのです。

十字架、そしてその復活のイエスさまと出会って変えられた弟子たちや人々の証言を通して、今日このイエスさまの物語は世界中に広がっているのです。

そしてそれは、今のわたしたちをも巻き込んで、「友」と呼んでくださるイエスさまという、経験へとつながっているのです。

そこまで心と魂に迫る物語を、今度は”わたしの物語として”経験するようになる。それは聖霊のお働きです。聖霊によってわたしたちの経験と心に触れて、この方こそ本当に私たちが愛してくださっている神さまなのだと言わせてくださるのです。

だから

Ⅲ. この物語は、わたしたちの物語を祝福する

続くイエスさまの言葉も心に留めておいていただきたいのです。

15:16 あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。

わたしたちが不思議な導きな出会いや導きの中で、教会に導かれイエスさまを信じることができたことは、ただの偶然ではありません。

イエスさまは、「わたしがあなたがたを選んだのである」と言ってくださいます。そうして、だからわかることがここにはあります。

1. わたしの物語はイエスさまの選びに始まっているから確かです。
2. わたしには「実を結ぶ」という人生が計画されている
3. それは具体的には「祈る」ことで実現される…ということです。

多くの人が、自分の人生の物語を「自分独占所有の物語」だと主張しています。確かにわたし片平勝の人生の物語は、わたし以外に経験できない物語でしょう。

けれども、わたしはこの人生に、あるときイエスさまの物語を迎え入れたのです。そのときからわたしの人生の物語は、自分よがりの、自己中心の物語ではなくなりました。イエスさまとともに歩み、イエスさまが見ているものに、人に心を配り、そしてイエスさまが愛したように、わたしも愛する者となりたいたいという願いが、生活と心に大きく満ちてきたのです。

つまり、イエスさまの思いと物語が、わたしの人生の中心となって、芯となって、わたしの歩みを支えるものとなったと言えるのです。

ああ、イエスさまがわたしの内に生きていけると言えるのです。

生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、生きていられるのである。(ガラテヤ2:20)

さいごに)

あらためて、イエスさまは、「…わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい」(:9)と、わたしたちをご自分の豊かな愛の物語の中に招いてくださっており、そしてこう締めくくるのです。

15:17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

2千年前と同様、わたしたちの教会に導かれている人たちも、それぞれの自分の人生物語を抱えて生きています。生い立ちも、今抱えている弱さや問題も、それぞれ違うでしょう。

けれども、あのイエスさまの物語によって、わたしたちはともにイエスさまにつながられています。同じイエスさまの愛のうちに迎えられています。

だから同じイエスさまのもとで祈りあい、愛し合うことができる者とされているのです。実にこれが、イエスさまの言葉に応答する、わたしたちの教会の物語となるのです。だからこの言葉を大切にしましょう。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。